

(国語)

「基礎基本を確実に身につけ、自ら学ぼうとする子どもを育てる」

—交流や書くことを通して—

大阪市立大桐小学校 西園 了典

1. 研究主題設定の理由

本校では、教育目標を「自ら学ぶ態度や、心豊かにたくましく生きる力を育てる」と設定し、児童が進んで学び、社会の中でたくましく生きていける子を目指し、日々の教育活動を展開している。

本校の児童の現状と課題を把握するため、研究1年目の4月に研究推進全体会を行った。その結果、本校の児童からは自ら学ぶ姿があまり見られないことや基礎基本が確実に身につけていないことが明らかになった。そのため、研究教科を算数科に定め、「基礎基本を確実に身につけ、自ら考える子どもを育てる」を主題として研究を進めてきた。本年度で研究は3年目となり、昨年度の課題をもとに、「考えを伝え合う中で自ら進んで学ぶことができる」ように、副主題を「書くことや交流を通して」として研究を進めた。

2. 研究の趣旨

研究をスタートするにあたって、学校アンケートの結果を分析すると、本校は学習へ向ける意欲が低い児童がいることや、基礎基本の定着が充分でない児童がいることが明らかになった。そのため、研究を始めるにあたって、「学習が楽しい」「学習が分かる」という思いを児童に持たせることを中心に研究の重点を決めていった。そして、児童が学びを深めていく中で、「こうすれば問題を解けるのではないか」「もっと知りたい」という考えを持てるような児童を育てていくようにした。

また、本校には経験年数の短い若手教員が多く、算数科に限らず授業の仕方が十分に身に着けていない教員がいた。そんな若手教員を含めた教職員全体で研究を進め、授業力の向上を目指すことにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①5段階を基本とした、算数科の授業の流れに沿った展開の定着

- 自ら学ぶことのできる場を設定するため、導入やめあて確認の段階で考える時間を十分にとる。
- 単元全体の流れや、「めあて」と「まとめ」のつながりを重視した授業展開の工夫をする。
- 児童の実態・単元の特徴にあわせ、個別支援や効果的な習熟度別少人数授業を行うなど指導形態の工夫をする。

視点②対話的な場の工夫

- 問題を協同的に解決できるようにペア・グループ・全体の話し合いの場を設定する。自分の考えを書いて明確にしてから、グループや全体での交流へつなげていく。
- 児童がもった考えを話し合いの中で深めていけるように、ホワイトボードにまとめたり、話型を使っ

たりしていく。また、ICT 機器の効果的な活用方法も工夫する。

○具体物・半具体物を効果的に活用し、話し合い活動を活発にしていく。

○自分の考えを言葉だけでなく、図表やグラフを使い効果的に伝えられるように工夫する。

視点③基礎基本の定着の工夫

○朝の学習タイムに図書教材やデジタルドリルを活用して基礎基本の定着を図る。

○既習事項を掲示し、どの児童もすぐに学習を振り返って確認できるようにする。

○学習のつまづきを無くすため、個別対応できるヒントカードを用意したり、I C T機器を使って視覚的に理解を促したりできるようにする。

視点④ノート指導の工夫

○図表と文を関係付けながらノートに書き表すことで、数学的な思考を促す。

○分かったことを振り返ってノートに書き、学習の定着や単元全体のつながりを意識できるようにする。

○自らの力で算数の学習に取り組むために必要な資料として、子ども自身がノートを作っていけるように指導していく。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○見通しを十分に持たせることで、自力解決しようとする意欲が向上した。

○5段階を基本とした授業により、研究主題にもある「基礎基本の定着」と「自ら考える子どもを育てる」につなげ、力をつけることができた。

○基礎基本の定着に向けて「朝学習・ノートの書き方・話型」など、学校全体で共通して指導することで力をつけていくことができた。

○学校全体でペア・グループでの対話が日常的に行われるようになり、話し合い活動が定着した。

○話型を意識することで、考えを整理したり順序立てて説明したりすることができ、交流を深めていくことができた。

○継続してノート指導を続けていくことで、考え方の説明や問題の解き方を自分の言葉で書けるようになった。また、振り返りを書くことで、学習の理解度が高まった。

(2) 今後の課題

○主題にある、「自ら学ぶ子どもを育てる」に向けた手立てが弱い部分があった。児童が更に主体的に学べるような指導を進めていく必要がある。

○基礎学力が定着していない児童がいるため、更なる定着が求められる。また、前学年までにつけるべき力がついていない児童に対してどのようにフォローアップしていけばいいか考えていく必要がある。

○話型にそって話すことはできるようになったが、考えを共有することにとどまり交流に至らないことがあった。「伝える」から「意見を出し合いながら一緒に考える」へ段階をふんで取り組ませていく。